



身近な町の問題や出来事をご紹介します

だんご とぴっく

大きく育ててドジョウ放養

西松井のやすぎどじょうセンターで今年の稚魚生産が行われ、6月9日にどじょう生産者へ引き渡されました。

5月30日に5ミリ程でふ化した稚魚は、同センターのプールで育てられ、約1センチまで成長。この日は約280万匹が1万～5万匹毎の袋に小分けされて市内15の農家に配付されました。稚魚は生産者の池で育てられ、早いもので7月には7センチ程になり全国へ出荷されます。



▲稚魚出荷作業を行うどじょうセンターのスタッフ。



ふるさとの絆を深める安来会

5月28日、東京のNHK青山荘で東京安来会総会（渡部哲郎会長）が開催され80人が出席しました。同会は、関東圏域在住の安来市出身者らで組織され、約800人が加盟。総会では、役員選任、ふるさとの近況報告などがありました。



▲会を盛り上げた武良さん

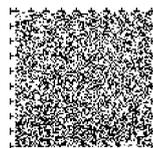
懇親会では、同郷の仲間との再会を喜び、ふるさとの話題に花を咲かす姿が見られました。会員の一人で書籍「ゲゲゲの女房」の著者・武良布枝さんが飛び入りで安来節を披露する一幕もあり、会員同士の友好を深めていました。

訪日外国人観光客を会話でおもてなし

安来市観光協会では増加傾向にある外国人観光客に対応するため、接客時に活用する「おもてなし会話帖」を発行しました。

会話帖は旅館用の「フロント編」8ページと飲食・土産店用の「一般店舗編」12ページ。3カ国語（英語・韓国語・中国語は簡体字と繁体字）が掲載され、指差しでもやり取りができるように紙面が編集されています。

市内への外国人観光客の入込客数は、平成27年は前年比19.1%、宿泊者数は31.1%と増加しています。





にっぽん丸船内で加納美術館がPR

「旅の思い出にお抹茶をどうぞ」。境港に寄港中のクルーズ客船「にっぽん丸」船内で、安来市加納美術館と安来市観光協会が5月9日、観光PRを行いました。7階の茶室では、同美術館がお点前の実演と、名碗を展示。併設のラウンジでは、乗客にお抹茶を振る舞いました。また、テーブルの上には広瀬絋や広瀬和紙、錦山焼、出雲鍛造工芸品など、安来市の伝統工芸品が置かれ、ラウンジ内は落ち着いた空間に演出されていました。

にっぽん丸の川野ゼネラルマネージャーは「停泊中に地元の方に乗船してもらい、茶室でお茶のサービスをしてもらうことは初めて。今回がひとつのきっかけになったので、さらに企画を深めていきたい」と話していました。



ひろせ保育園で6月3日、フラメンコミニライブが開催され、約90人の園児から「オレッ」の歓声があがりました。同園を訪れたのは、翌日に市内で開催される「フラメンコライブ響～Hibiki」に出演するメンバー5人。生ギターと唄に合わせて激しく踊る姿に園児たちは見入っていました。

途中、スペイン語の「オレッ(すばらしい)」や「グラシア(ありがとう)」といった言葉も紹介され、園児たちは早速、その言葉で声援を送っていました。

舟谷園長は「遠い国の歌と踊りに園児たちは圧倒されたようですが、良い経験になりました」と話していました。

ひろせ保育園に「オレッ」が響き渡る



地震で土砂災害が発生！ 合同訓練を実施

安来市危機管理連絡会議（安来警察署・広瀬土木事業所・市・市消防本部）は6月2日、古川町で合同訓練を実施しました。同会議での訓練は4回目の取り組み。関係機関から約40人が訓練に参加しました。

「震度6強の地震発生で、車両が大規模な土砂災害に巻き込まれている」という状況を想定した訓練を展開。今回は、災害時の応急対策業務で市と協定を結んでいる安来市建設業協会も初参加し、重機を使って救出活動を援助しました。

また、上空からの情報収集のため、市消防本部が保有する無人航空機（ドローン）を投入。各機関の連携や情報伝達などについて確認がなされていました。

